Ⅰ期（一般・社会人）

受験番号		氏名	

平成 31 年度

武蔵野大学大学院　看護学研究科看護学専攻　　入学試験問題･解答　（1 月 13 日）

評　点

[　母子看護学　]

問題 1　近年、日本においては出産年齢の高齢化が進行している。出産年齢の高齢化に伴う母子の身体的・心理・社会的課題をひとつあげ、看護者として必要な援助について述べなさい。（40 点）

問題 ２ 以下の事例を読み、下記の問1～2に答えなさい。

Ａ子さんは 34 歳の初産婦である。職業は会社員で、夫と二人暮らし、血液型は A 型、Rh（＋）で既往歴はない。身長 160 ㎝、非妊時体重 68 ㎏、妊娠経過は順調だった。妊娠 38 週 0 日の朝 5 時に陣痛が発来し、入院となった。入院時の体重は 78 ㎏だった。翌朝、続発性微弱陣痛、回旋異常のため緊急帝王切開を行うことになった。未破水で胎児機能不全は認められなかった。昨夜は夕食を 1/2 程度摂取し、その後も少量ずつお茶を摂取していた。本日朝食は摂取しておらず、6 時以降は飲水もしていなかった。医師からの手術の説明に対して、「こんなに痛い思いをしたのに残念ですがもう体力の限界です。早く手術をお願いします」とＡ子さんは述べた。帝王切開は 10 時から脊椎麻酔で行われ、手術中のバイタルサインは安定していた。手術時間は 1 時間 15 分、出血量は 450ml だった。出生した児は 3,420g の女児で、アプガースコアは 1 分後８点、５分後９点だった。

問１　Ａ子さんに起こりやすい術後合併症をひとつあげ、その根拠と予防方法について説明しなさい。（30 点）

問２　児は生後４日目、哺乳力が低下し、血清ビリルビン値 19.5 ㎎/dl のため、光線療法が開始された。Ａ子さんは、「なぜ黄疸がひどくなったのでしょうか。もっとお産を頑張って自然に産んであげれば、こんなことにならなかったのでしょうか。赤ちゃんがかわいそうで…」と言って泣き出した。Ａ子さんへの援助とその根拠について説明しなさい。（30 点）